

テーマ	平面図形と空間図形の連動を視点とした小中一貫の図形カリキュラムの開発研究(3)
発表者	岡崎正和（岡山大学）、影山和也（広島大学）、和田信哉（鹿児島大学）、渡邊慶子（滋賀大学）
指定討論者	太田伸也（東京学芸大学）
趣旨及び概要	<p>本研究は、小学校6年から中学3年にかけての図形カリキュラム、特に空間図形カリキュラムを再考し、理論的かつ実践的な検討を通じた新しいカリキュラム・デザインの提案を目指している。本発表は、昨年・一昨年の研究（その1、その2）に続くものとして、空間図形のカリキュラム構成を支える理論的基礎のさらなる明確化と、授業実践を通じたカリキュラムの具体的な提案を行うことを目的とする。4つのリサーチクエスチョンを立てる。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 空間図形カリキュラムの構成の為の理論的枠組みを明確化する。2) 視覚化におけるどんな機能が、空間の理解にどのような効果を与えるか。3) ICTによる空間図形の図的表現は、記号論的観点からその特徴を記述できるのか。4) 空間図形における証明の生成過程を、空間－平面の相互理解として記述できるか。 <p>本発表では、空間図形の学習に関わる3つの視座（視覚化、記号論、証明論）を総合した理論的枠組みの明確化を図り、具体的なカリキュラムの提案とその分析方法について議論していく。</p>